

告示	番号	2	慢性心疾患
	疾病名	右室二腔症	

## 右室二腔症

うしつにくうしょう

### 概念・定義

右室の漏斗部の狭窄ではなく、漏斗部よりも近位側の右室肉柱部の肉柱が異常に高く、かつ太くなり、右室内に狭窄を形成する。聴診では胸骨左縁に表在的に粗く長い収縮期雑音をきく。右室内の圧差が30～50mmHg以上ある場合には手術が必要である。

### 症状

乳児期には右室内圧差はまだほとんどないので、心室中隔欠損の大きさに応じて左-右短絡が生じ、それによる臨床所見を生じる。短絡の多い場合には心不全を生じて、多呼吸や体重増加不良などの所見を呈する。狭窄が高度になり、チアノーゼが出現すると、運動時に呼吸困難を生じるようになる。通常、右室肥大が生じてても、Fallot四徴症のような隠蔽や運動障害はない。聴診では胸骨左縁に表在的に粗く長い収縮期雑音をきく。II音は分裂してきかれ、亢進はない。

### 治療

右室内の圧差が30～50mmHg以上ある場合には手術が必要である。手術では右室内異常筋束を切除し、心室中隔欠損を合併する場合には同時に欠損孔も閉鎖する。手術成績はFallot四徴症よりよい。

抜粋元：[http://www.shouman.jp/details/4\\_48\\_61.html](http://www.shouman.jp/details/4_48_61.html)